



私が死なないでいる理由

川本 琉楓

初代牧野植物園子どもガイド

私はこの春、「死なないでいる理由」という本に出会いました。今から、その本の一節を紹介합니다。

“わたしは何のためにここにいるのだろうか？こんなわたしでもまだここにいていいの？”……自己の存在理由をめぐるそんな問いに、幼いといってもいいような年頃からさらされているというのは、悲痛なことである。このような問いは、かつては、寝たきりになって他人に世話をしてもらえばかりで、何の役にも立っていない（と思ひ込む）、そんな高齢者が抱え込むものであった。あるいは、仕事や生活にひどい違和を感じて、人生の道に迷う、そんな大人たちが抱え込むものであった。

ところが、現代社会では、こうした問いに、**10代**どころか小学生の間からさらされている。自分でも理由がよくわからない自己否定の感情、ないしは焦りやあきらめを、内に深くため込んでいる。

鷲田清一著 角川ソフィア文庫 p29

私が、一番共感したのは、「現代社会では、こうした問いに、**10代**どころか小学生の間からさらされている」という部分です。私自身小学校の時にクラスメイトや先生から孤立した経験があり、辛い時期をすごしたことがあります。大人から見れば些細なことでも、小学生にとっての人間関係の闇は深刻な心の問題です。「この苦しみがずっと続く」と思い込んでしまうからです。

私の場合、幸いクラス替えによって人間関係が好転し、「孤立」から解放されました。今思えば、「広い心を持つことが必要」だったと思います。今の孤立は永遠には続かない。人間関係は、あるとき突然変化する。相手を許せば、心から相手が消える。どんなことにも時間が必要。こんな事実を直視できる心が私にとっての広い心です。

私が死なないでいる理由は、「孤立」の隣に新しい出会いが、「心の闇」の向こうに「心の灯り」が待っているからです。



大桐トンネル（宇部市東吉部）



ぼーっとする至福の時

近藤 嘉野

高知東高校3年

私は、江戸時代に土佐藩の武士が参勤交代で歩いた道の前に住んでいます。

この参勤交代の道は、**1718年**に**6代藩主**の山内豊隆が最初に通った「北山越え」と言われています。

それまでは海路を使っていた土佐藩ですが、「北山越え」の方が比較的安全で経費が安いという理由で変更したそうです。



土佐藩参勤交代「北山越え」の様子

国道から離れた山の中にあるせいか、周りに人家は少なく、地域の奈路小学校の児童も少なくなってきました。

でも**300年前**、目の前の川沿いの道を**500人以上**の土佐藩の武士やその家族が歩いて四国山地に入っていった姿を想像すると、私の住んでいる地域はものすごい歴史のある地域なんだと嬉しくなってきます。

私は高知市内の高校に自転車で通学しています。往復**2時間**のサイクリングですが、自然が大好きな私には楽しい時間です。今年の春休みから妹に代わって、私が自宅で飼っている犬の世話係になりました。

簡単に言うと、毎日**1時間**、人気のない参勤交代の道とその周辺の川沿いの小道を、犬と一緒に散歩するというものです。**K**ポップや**J**ポップなど、いろんなジャンルの音楽を聴きながら散歩するのですが、頭の中はその間、いつも「ぼーっと」しています。

家でも帰っても暇があると家の窓から前の道と小川を「ぼーっと」眺めています。自然の中で「ぼーっと」する時間は、心が穏やかになる至福の時です。

昨年**11月**、東京の虎ノ門ヒルズ・オーバル広場で「**TOKYO** ぼーっとする大会」が開催されました。

この大会の一番の目的は、時間のない現代人の働き方や生き方を見直すことだそうです。参加者は**3人**一組で応募し、当日は**90分間**ただひたすら「自分の職業や立場を活かしたポーズで芸術的にぼーっとする」だけです。「ぼーっと」することはトレンドかも、です。

私は高校を卒業したら就職したいと思っています。たぶん今よりずっと忙しくなるとは思いますが、それでも自然の中で「ぼーっと」する時間を作って心穏やかに過ごせたらいいなと思っています。

KOCHI IYEO HP



2024年7月13日発行

発行者

高知県青年国際交流機構

(KOCHI IYEO)

会長 前田正也

☎ 090-9552-0022

✉ xiwang@yacht.ocn.ne.jp